

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100927
法人名	社会福祉法人 峰栄会
事業所名	さざの宮グループホーム
所在地	静岡県浜松市東区小池町38番地の1
自己評価作成日	平成25年12月3日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 25年 12月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者主体の生活を提議するよう心がけております。利用者同士の良い関係を保ちながら、利用者の望むことを出来るだけ反映できるように、日々努めております。職員は利用者のできること・できないことを把握し、日常生活の中で、利用者が活躍できる場面を意図的につくり、行って頂いた後には必ず「ありがとう」を伝えます。感謝の言葉を伝えております。そのことが、認知症の方にとって自尊心を保ち、社会性を回復すると信じて取り組んでおります。4階という立地でありながら、花壇には季節の花を植えました。毎日買い物へ行くなど地域へ出向いております。天気の良い日には、富士山を眺めることもできますし、地域のお祭りの際には目の前で花火を鑑賞でき、景色のすばらしい場所となっております。利用者も職員も明るく、毎日が笑顔であふれている事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

晴天時には富士山が眺められ、屋上では四季折々の花が咲くよう工夫されています。一階には利用者さんの共同作品が展示され、食堂兼居間も大家族を前提とし綺麗にまとまっています。総合施設であるからこそ、それぞれの職員による協力体制が整っており、施設全体が絆で結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウタカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	56	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	57	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	58	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	59	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけたい (参考項目:49)	60	職員から見ると、利用者にはサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	61	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	62	

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

I. 理念に基づいた運営		自己評価	外部評価
自己外部	項目	実践状況	実践状況
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・事業所方針の中に「地域に根ざす」と掲げ、職員は地域密着型の施設として、地域との関わり的重要性を認識している。	地域のお祭り、浜松祭り、また地域の防災訓練に参加すると共に、自治会長が推進協議会に出席するなど地域の情報を共有することで地域との重要性を認識し、目標を実践している。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、買い物へ出向き、店員とも顔馴染みになり、挨拶を交わしている。また、納涼祭へ出向いたり、会館まつりへ作品を出展している。	グループホームとしては施設側からの制限もなく自由に外出し買い物等で馴染みの客となっている。施設の4階にあるため、地域に利用者が出向いている。
3	(3) ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、法人内の地域包括支援センター主催の介護者教室の中で、地域の方々に対して、認知症についての講話をしている。また、法人内では、事例発表をしている。	年6回は運営推進会議があり、写真を提示しながら、利用者の生活の様子を説明している。避難訓練にも参加し、4階から1階までの非常階段を使って、外へ出ることの紹介をしている。
4	(4) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者が、運営推進委員となり、参加していただき、日々の取り組み状況等を伝えていく。また、月1回、介護相談員の方にも訪問して頂いている。	市の担当者と、利用者と一緒に運動会のピデオを見ながら状況の説明をしたり、介護相談員の担当が変わる際の引き継ぎなど、関係を作っている。
5	(5) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。法人内に、身体拘束防止委員会があり、毎月課題を決めて勉強している。日々の中で、言葉がけに気を付けている。	毎月、話し合いの行われ、課題解決に向けた努力をしている。例えば「ちよと待つて下さい」をやめることなどで利用者に変化が起きていたり、職員の間でロールプレイをして思いを共有したり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
6	(6) ○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	新聞等の虐待事件を通して、事業所内で話しをし、原因や改善策等の意見交換を行っている。	
7	(7) ○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目			
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況		
8	外部	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の中に、日常生活自立支援事業を活用している方もあり、理解している。以前には、成年後見制度を活用できるように、支援したこともある。</p>		次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には、必ず施設内を見学して頂いている。また、面談や契約時には十分な時間を設け、不安や疑問が残らないように努めている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に関り合いを開催し、利用者に自由に意見を発言できる環境をつくっている。また、運営推進会議へ全家族に参加を呼び掛けている。</p>	<p>運営推進会議へは県外の家族の参加が以前に比べると増えおり、また年1回の敬老会の後には家族会を開いている。納涼祭では全家族がホームが作ったアンケートに答えている。</p>	<p>積極的な取り組みをなさっています。さらに、家族や利用者の意見がサービスに反映されたことを表に出される等の取り組みに期待します。</p>
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議や勉強会等で、職員の意見が反映されている。また、管理者と職員が面談し、意見交換を行っている。</p>	<p>職員たちの目標管理シートを作り、職員たちの意見や提案を理解できる仕組みがある。母の日会という行事や、定年退職者を利用者と一緒に見送るなどの提案など職員意見が反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格手当があったり、勤務年数に応じて表彰もあり、向上心を持って働ける環境となっている。全体会議や忘年会等を通して、法人全体で交流できる環境も整っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>向上心を持って働けるように、月1回内部研修があったり、1泊2日の研修旅行もあり研修が充実している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月全体会議があり、法人内の他事業所と交流することができている。また、静岡県グループホーム協会に加入しており、研修を通じて交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目		自己評価 実践状況	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		項目	目				
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている		入居前に、本人が不安に思っていることや困っていることを把握し、できるだけそれを取り除くケアに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		入居前の面談にて、不安なことや要望等を伺っている。意見を受け、真摯に対応することで信頼関係を築くことが出来るように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		本人の身体状況や思い、家庭環境などを含め、最も適したサービスを提供できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		基本方針にて「共に生きる」と掲げており、毎食、職員も一緒に食事をし、暮らしを共にしている。常に、調理や買い物等を一緒にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		行事と一緒に参加して頂いたり、外出や外泊ができるように、入居者と家族の関係を大切にしている。母の日には、家族に協力して頂き、「母の日会」を開催することができた。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		家族の協力のもと、入居前より利用している美容院へ通えるように支援している。家族に確認をとりながら、知人等と面会できるようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている		利用者同士の関係を把握した上で、その関係を尊重している。淋しそうな表情が覗える際は、そっと周りに寄り添うように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方にも、納涼祭への案内を連絡している。現在、退居されたご家族の方が、運営推進会議に参加して下さっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中での、利用者の言葉をそのまま記録へ残している。定期的な寄り合いにて、利用者の希望や意向などの把握に努めている。	定期的に行う寄り合いで、話された本人の言葉をそのまま記録している。何の話をしていったのか、本人の思いがわかり、次のアセスメントの内容の参考にもなり、状況が把握できるようにになっている	本人の思いや意向の把握が困難な方に対しての取り組みが、これからとくに必要となってきます、さらなるケース検討に期待します。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、御家族に協力して頂き、利用者の生活史シートを作成し、生活歴等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を日誌に記録として残している。また毎日申し送りを行い、その日の利用者の状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の状態の変化に添ったケアのあり方を処遇会議などで話し合い、利用者や家族の意見を踏まえた上で、ケアプランに反映している。	毎月行う処遇会議では、前向きに真剣に話し合っている。家族の意見も踏まえて次回のケアプラン作成にも役立てている。職員全員が計画内容や家族の意向などが把握できるように勉強会も開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を日誌として記録に残し、職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状態や家族の環境により、最も必要とされるサービスを提供できるように取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価 実践状況		外部評価 実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日、地域へ買い物に出掛けている、地域の行事にも出来るだけ参加している。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向に添った医療機関を利用している。必要時には、家族にも受診に同行して頂いている。	ほとんどの利用者がかかりつけ医を利用している。そうでない場合も職員の付き添いで馴染みに医者へ受診をしている。嘱託医との連携も保ちつつ、24時間体制になっている。医師も利用者と誠心誠意向き合ってくれている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで、利用者の状態を伝えている。また、緊急時にもかけつけ、対応している。				
32		○入院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度、入院した利用者はいないが、入院した際には、面会に出向き、利用者の状態把握に努め、病院関係者と情報交換をするよう努めている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明をしながら、事業所でできること・できないことを明確に伝え、同意を得ている。	入居時に契約書と一緒に重度化指針を説明しており、対応に困った時は家族が面会の時に提案をし、一緒に医師の元へ行くこともある。家族も終末期の対応については理解し共有できている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDがあり、定期的に使用方法を学び、実践力を養っている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力を築いている	毎月、防災訓練があり、災害時の対応や避難訓練を行っている。地域の防災訓練には、避難者の受け入れ訓練を実施している。	毎月月末に防災設備の点検・確認をし、夜間訓練も行っている。非常階段の誘導も一人の夜勤の職員だけではなく、他の施設の職員も訓練に参加している。特別養護老人ホームがある関係上設備が整っている。			

自己評価	外部評価	
	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
IV	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	
36	<p>(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉がけやコミュニケーションがあり、常に利用者を敬い尊重できる言葉がけになるように努めている。</p>
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>毎日のおやつは、利用者を選択して頂き、希望の物を提供している。また、昼食のおかずは、利用者によって決めている。</p>
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望によって支援している</p>	<p>言葉かけやコミュニケーションを作り、対応している。また利用者が全員女性ということもあり、羞恥心に配慮した女性職員での対応が行われている。</p>
39	<p>○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している</p>	<p>入居前より愛用している化粧品や整髪料を使用できるように支援している。毎日ネットケスをされる方もいる。定期的引渡し施設内の美容室を利用できるように支援もしている。</p>
40	<p>(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員が協力し、食事作りをしている。片付けは、利用者自身が洗いたい時に洗えるよう支援している。</p>
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている</p>	<p>利用者が献立を作り、一緒に買い物にも出掛けている。利用者が行事メニューを決めたりもしている。調理の補助、盛り付け、配膳、片付けも利用者や職員で行っている。</p>
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時と就寝時に、歯磨きの支援をしている。義歯には、毎晩ポリデントを使用し消毒をしている。</p>

次のステップに向けて期待したい内容

自己評価	外部評価			
	自己評価 実践状況	実践状況		
43 外部 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンは、排泄表に記録しており、全職員が把握している。現在、利用者全員がトイレでの排泄を行っている。	利用者のほとんどがおむつを使用していない。排せつチェック表を利用して、排泄パターンを把握し、トイレ排泄の支援を行っている。	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、バナナとヤクルトを提供している。また、毎日みんなの体操や足上げ運動をしている。排泄表にて、排便の確認を行っている。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の気持ちや希望に沿った入浴支援を行っている。入浴剤を使用し、入浴を楽しめるように配慮している。毎日、足浴を対応している利用者もいる。	利用者の中には入浴を拒否することもあるが、無理強いはいしていない。気の合った利用者同士一緒に入浴することや、好きな時間に入浴する体制を整えている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの寝巻や季節に応じた寝具を使用して頂き、室温調整を行い、気持ちよく入眠できるように配慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルがあり、各利用者の服用している薬について、職員は理解している。利用者の体調に変化があった場合は、かかりつけ医に連絡している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、利用者の趣味や興味のあることを把握している。裁縫をしたり、花壇の手入れをしたり、トランプを楽しんでいる利用者もいる。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日買い物へ出掛けている。家族の協力もあり、毎週教会へ外出している利用者もいる。外食へ出掛けたり、喫茶店へ行くこともある。	帰宅願望の強い利用者には喫茶店で朝食を摂ったりしている。花苗も一緒に買いに行くことで花壇に植えた花に興味を持ち、見ては楽しんでいいる。施設で準備できない時は外食に出掛けることもある。共に生き、家族同様に和やかに過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
50		<p>○お金の所持や使うことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカニに応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、利用者自身でお金の管理ができる方がいない為、お金を所持していないが、買い物や外食など、本人が使用したい時には、立替えをし不自由なく外出ができるようになっている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>姉妹との電話のやりとりの支援をしたり、希望時には家族へ手紙をだせるように支援している。</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>4階に位置している為、見晴らしが良く、天気の良い日は富士山が眺められる。天井は高く、開放感が感じられる。また、花壇に季節に応じた花を利用者と一緒植え替えたりしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂には稼働量、廊下には椅子を配置し、気の合った利用者同士がおしゃべりしている光景がよくみられる。</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで慣れ親しんだ物を持ち込んでいただけでなくに入居時に説明している。利用者が今まで使用していた鏡台やちゃぶ台を持ち込んでいる方もいる。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」がわかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者が困ることがないように、トイレを分かりやすく表示したり、居室の入口には、貼り紙をしたりして工夫している。</p>